

三方よし

藤枝市立藤枝中央小学校



「差別を生まない」

校長 新村和彦

毎日、「都道府県別の感染者数や重症者数」「医療体制の逼迫」「自宅療養者が自宅で死亡」「〇〇でクラスター発生」「ワクチン接種状況」「リモート授業」「〇〇学校で学級閉鎖」等、新型コロナウイルス関連のニュースがメディアで報道されない日はありません。トップニュースは、必ずと言っていいほどコロナ関連のニュースです。ネットニュースを見ていて、気になったニュースがあったので、紹介します。

愛知県犬山市の2つの公立中学校で、計11人の教諭が生徒に対し、新型コロナウイルスワクチンを接種したかどうか挙手をさせて確認していたことが8日わかった。市教育委員会がホームページで明らかにした。

市教委は「ワクチン接種について、個々の意向が必ずしも尊重されず、同調圧力を生む恐れがあり、差別につながりかねない不適切な行為だ」として、謝罪のコメントをだした。

市教委によると、教諭らは8月の登校日や9月の授業時に、感染拡大防止やワクチン接種後の対応などを話す際に、生徒に挙手させた。

複数の保護者から問い合わせがあり、市教委が市立の全小中学校を対象に調査した。
ネットニュース【KYODO】の記事転載

渋谷で、若者向けに予約なしのワクチン接種センターを開設したところ、多くの方がワクチンの接種券を求めて行列を作ったニュースは、記憶に新しいところだと思います。

藤枝市においても、12歳を迎えた6年生がワクチン接種ができるようになりました。（※これから12歳を迎える子どもは、誕生日を過ぎてから順次接種できるように接種券が届くそうです。）渋谷のこと考えると、藤枝市の対応は大変ありがたいことです。



しかし、「接種したい人」がいるということは、「接種したくない人」も世の中にはいるはず。「接種する」「接種しない」は、あくまでも、本人と保護者の考え方でしょう。副反応のことを考えれば接種するのが怖いと思う人がいても当然です。実際に私も1回目を接種したら、2回目は「接種したくないなあ」と思ってしまいました。ですから、個人の自由に任されているデリケートな問題に対して、「接種した」か「接種してない」かを聞くこと自体が、間違っているのです。

きっと、「なぜ、接種しないんだ！」と思う人が大勢いるかもしれませんが、それこそが同調圧力であり、差別を生むのです。

夏休みが明けて、コロナに感染するのが心配で、登校を控えている子がいるのも事実です。しかし、登校するか登校を自粛するかは判断は、ご家庭の判断に任されているのです。学校がとやかく言うことではありませんし、ましてや、関係のない人がとやかく言うことは控えるべきです。

すでに、9月6日（月）から一部の学級でリモート授業（定点カメラを設置して授業の様子を配信）を行っています。「リモート授業は、保護者の方と相談の上で行っている」ことであり、その相談内容についてはコロナ関連ではありません。ですから、配信しているクラスが、コロナ関連で配信していると決めつけるような不用意な発言や憶測は控えていただきたいと思えます。

新型コロナウイルスの足音は、すぐそこまで来ています。これから、陽性者が出て、学級閉鎖や学年閉鎖、休校措置もあるかもしれません。しかし、新型コロナウイルスに感染したいなんて思っている人は誰一人としていないのです。「〇〇ちゃんが、コロナに罹った」など、不用意な発言や憶測は、必ず差別を生みます。

「三方よし」を大切にしている中央小では、そのような差別を生まない学校であると信じています。